

令和5年度 こども学科1年

講義・演習・実習概要

旭川福祉専門学校

(1年講義概要目次)

	教科目	授業形態	単位数	必修・選択	期間	頁
1	憲法	講義	2	必修	前期	1
2	文章表現	演習	2	必修	前期	3
3	一般体育	実技	1	必修	前期	4
4	保育原理	講義	2	必修	前期	5
5	教育原理	講義	2	必修	後期	6
6	社会福祉	講義	2	必修	前期	7
7	保育の心理学	講義	2	必修	前期	8
8	保育内容総論	演習	1	必修	前期	9
9	子どもと言葉	演習	1	必修	前期	10
10	子どもと音楽	演習	2	必修	前期	11
11	子どもと体育	演習	2	必修	前期	12
12	乳児保育 I	講義	2	必修	前期	13
13	人間関係論	講義	1	選択	前期	14
14	子どもと音楽表現 I	演習	2	必修	前期	15
15	子どもと造形表現	演習	1	必修	前期	16
16	保育所実習指導 I	演習	2	必修	前期	17
17	施設実習指導 I	演習	2	必修	前期	18
18	自然と生命	演習	1	必修	前期	19
19	情報リテラシーと処理技術	演習	2	必修	後期	20
20	英語	演習	2	必修	後期	21
21	保健	講義	1	必修	後期	22
22	社会的養護 I	講義	2	必修	後期	23
23	保育者論	講義	2	必修	後期	24
24	子ども家庭支援の心理学	講義	2	必修	後期	25
25	教育心理学	講義	2	選択	後期	26
26	子どもの文化	演習	1	選択	後期	27
27	保育課程論	講義	2	必修	後期	28
28	子どもと人間関係	演習	1	必修	後期	29
29	子どもとリズム表現	演習	1	必修	後期	30
30	子どもと造形	演習	2	必修	後期	31
31	子どもと音楽表現 II	演習	2	必修	後期	32
32	地域子育て支援活動 I	演習	2	必修	後期	33

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
憲法	1 前期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
岡部 信之	有	昭和63年旭川市内で弁護士として開業。法律実務の経験を踏まえ、憲法の解釈を説き、併せて多くの判例を紹介しながら講義を行う。			
[授業の目的・ねらい]					
1. 日本国憲法の基本原理と立憲主義を理解し、憲法の理念と意義を捉えたうえで、基本的人権と統治の機構の具体的な内容を把握する。 2. 憲法の具体的な内容を明らかにするなかで、それぞれの条文や規定について具体的な問題として現れた場面である判例を通じて、国民の生活にとって、どのような働きをもっているかについて学習する。 3. 憲法の基本原理や理念が、法全体の中でどのような地位を占め、それが他の法にどのように関連し影響するのかを検討し、あわせて、法という規範(ルール)のもつ意味や意義を考えながら、法全体の理解につなげたい。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の趣旨(実務法曹による講義の趣旨説明)—法解釈学 ・法体系と憲法学 ・憲法の意義 ・(付)経済、社会体制と憲法 				
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の特質 ・憲法の種類 ・憲法の原理と原則 ・立憲主義と法の支配 ・憲法の構造—人権規定と統治組織規定 				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の沿革と特質—三大原理 ・(付)三権分立制、議院内閣制 ・象徴天皇制 ・国民主権 ・戦争の放棄 ・基本的人権の尊重 				
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権の意義 ・基本的人権の歴史 ・基本的人権の種類 ・基本的人権の享有主体 ・(付)人権規定の時間的、場所的適用範囲 				
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇、皇族の地位 ・外国人、法人、未成年者の人権 ・憲法規定の私人間効力 ・(付)国家の要件、国籍と帰属 				
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・包括的人権(幸福追求権、法の下での平等) ・(付)新しい人権 ・総則的人権規定の意義と法的効力 				
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・法の下での平等の具体的内容 ・(付)平等権の観念 ・法の下での平等と具体的事例と判例 ・(付)違憲法令審査権 				
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・自由権的基本権の意義と種類 ・(付)身体的自由権と刑事訴訟法 ・精神的自由権と経済的自由権—(付)二重の基準論 				
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・思想、良心の自由 ・信教の自由 ・学問の自由 ・表現の自由 ・表現の自由の現代的意義と重要性—知る権利とアクセス権 				
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的自由権に関する判例 ・(付)集会、結社の自由 ・経済的自由権—職業選択の自由、財産権の保障—(付)制度的保障 				
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・営業の自由をめぐる判例 ・(付)外国移住、国籍離脱の自由 ・参政権—選挙権と国会の地位 ・(付)国務請求権 				
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会権—近代憲法における意義…生存権と国の責務 ・教育を受ける権利—学習権と最高裁判例 				
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・(付)勤労の権利と労働基本権—民法、労働法による補完 ・基本的人権のまとめ ・人権規定の課題と将来像 				

第14回 ・立法機関としての国会と行政機関としての内閣の関係—議院内閣制
・司法権の役割 ・地方自治 ・憲法改正 ・(付)政教分離規定

第15回 ・講義内容のまとめ—憲法の意義についての再考
・考査に関する説明—出題範囲の設定、採点基準、参考事項の説明

考査 ・授業で解説した基本的人権に関し二問を論述式で出題する
・講義内容から学生の自由選択で論題を設定し論述する一問を用意

- ・授業では、判例や個別事例など、具体的な事例を示して説明する
- ・基本的人権を中心に講義し、統治の機構については分散して説明する

[使用テキスト・参考文献]

『いちばんやさしい憲法入門 第6版』
初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行 共著
(有斐閣)
「憲法」豊岡短期大学

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)

期末試験またはレポートの成績(90%)
授業態度等(10%)

授 業 概 要

授業の科目名 文章表現	配当学年・時期 1 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 宮島 武彦	実務経験 有	実務経験の概要 高校「倫理」における集団読書、レポート作成、読書感想文の指導(20年)。進路指導として、小論文、作文、履歴書作成等の指導(10年)。大学非常勤講師として論文、レポート等の指導(11年)。			
[授業の目的・ねらい]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人として日常生活に必要な簡潔で的確な文章表現ができる能力を養う。 2. レポートや論文に必要な形式やねらい・方法・内容について理解し、作成する能力を養う。 3. 就職に必要な履歴書や自己PR、ビジネスマナーとしての文章表現の能力を養う。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (1)授業の概要、評価 (2)教材の種類と扱い方 (3)原稿用紙の使い方 (4)新聞記事の活用 2. 文章表現の説明及び文字の書き方 3. 文章のつくり方 (1)「伝わる文章」の準備と文章の構造(理論編と実践編) 4. 文章のつくり方 (2)「伝わる文章」表現力(理論編と実践編) 5. 手紙・はがきの書き方の基本 6. 手紙・はがきの作成 (1)お祝い・お礼状等の事例と作成 7. 手紙・はがきの作成 (2)近況報告・実習先への礼状、暑中お見舞い等の作成 8. レポートの作成 (1)文章の分類(主観的文章と客観的文章) (2)レポートとは何か 9. 学生レポートの書き方 (1)調査研究レポート (2)意見レポート 10. 学生レポートの書き方 (3)読書レポート (4)学習レポート 11. 論文の書き方 (1)論文とは何か (2)卒業論文 12～14. 履歴書の作成 (1)自己分析 (2)自己PRの表現方法と作成 (3)履歴書の作成 15. 文章表現のまとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 「文章力が身につく本」小笠原信行著(高橋書店)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
<ul style="list-style-type: none"> ・文章のつくり方 ・レポート・論文の書き分け術 ・手紙とはがきの書き方 ・就職内定マスターテキスト ・新聞のコラム・詩・文学等の資料としての活用 			課題・レポート(70%)と授業態度(30%)で評価する		

授 業 概 要

授業の科目名 一般体育	配当学年・時期 1 前期	授業形態 実技	時間数(単位数) 30 (1)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 三浦 裕	実務経験 有	実務経験の概要 平成21年8月,令和4年12月 教員免許状更新講習担当講師を務める			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集团的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の向上を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、障がいを持つ人ができるスポーツも体験・理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球などを仲間とともに楽しみ、技術的に向上し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに、試合運営ができるようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の向上を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. バレーボール①基本練習・応用練習 3. バレーボール②ゲーム・審判 4. バレーボール③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス 6. バドミントン①基本練習 7. バドミントン②シングルのゲーム 8. バドミントン③ダブルスのゲーム 9. バスケットボール①基本練習・応用練習 10. バスケットボール②ゲーム・審判 11. 卓球①基本練習 12. 卓球②シングルのゲーム 13. 卓球③ダブルスのゲーム 14. 障がいを持つ人のスポーツを学ぶ(風船バレーボールなど) 15. ウォーキングとその効果について 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
参考書・参考資料等 特になし			知識・技能(40%)、思考判断(30%)、 学びあう心(30%)		

授 業 概 要

授業の科目名 保育原理	配当学年・時期 1 前期	授業形態 講義	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 廣瀬 真弓	実務経験 有	実務経験の概要 認可乳児保育園、病院内保育園に35年勤務後、小規模保育園 新設に関わり6年間園長として在任する			
[授業の目的・ねらい]					
<p>①保育とは何か、こどもの存在をどのようにとらえるべきかを学ぶ。 ②保育の歴史と諸制度について基本的な知見を得る。 ③子どもを取り巻く現状について学ぶ。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1、 「保育とは何か」の保育の意義について 2、 保育の基本 3、 保育の制度と現状 4、 保育の歴史～世界の保育、日本の保育の思想と歴史的変遷を学ぶ 5、 保育におけるこども理解～子ども観・発達観と保育について理解する(1) 6、 保育におけるこども理解～子ども観・発達観と保育について理解する(2) 7、 保育の内容～養護と教育の一体的展開について学ぶ(1) 8、 保育の内容～養護と教育の一体的展開について学ぶ(2) 9、 保育の方法(1) 10、 保育の方法(2) 11、 保育計画(1) 12、 保育計画(2) 13、 多様な子どもの保育への対応(1) 14、 多様な子どもの保育への対応(2) 15、 保育者の専門性 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
・「よくわかる保育原理」森上史郎・大豆生田啓友編 (ミネルヴァ書房) ・随時、必要に応じてプリントを配布する			①受講態度 40% ②定期試験 60% 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
社会福祉	1 前期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
綱島 弘泰	有	重症心身障害児施設、デイサービスなどで生活相談業務に携わっていた。			
[授業の目的・ねらい]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の理念と概念 (2) 社会福祉の歴史の変遷 (3) 子ども家庭支援と社会福祉 2. 社会福祉の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の法体系、制度、実施機関、行財政 (2) 社会福祉施設と社会福祉の専門職 (3) 社会保障及び関連制度の概要 3. 社会福祉における相談援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の理論および意義と機能 (2) 相談援助の対象と過程 (3) 相談援助の方法と技術 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報提供と第三者評価 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決 5. 社会福祉の動向と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子高齢化社会における子育て支援 (2) 共生社会の実現と障害者施策 (3) 在宅福祉・地域福祉の推進 (4) 諸外国の動向 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「社会福祉論」(豊岡短期大学) 「みらい×子どもの福祉ブックス 社会福祉」(みらい)			期末試験の結果で評価する(100%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
保育の心理学	1 前期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
平間 千絵	有	精神神経科外来において臨床心理士として5年間心理業務、また本校学生相談室においての心理業務に従事中である			
[授業の目的・ねらい]					
<p>1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。</p> <p>2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</p> <p>3. 新生児期から老年期までの発達の特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 発達心理学とは 3. 発達段階と発達課題 4. 遺伝と環境 5. ピアジェの認知発達理論 6. 胎児期 7. 乳児期 8. 幼児前期 9. 幼児後期 10. 児童期 11. 青年期 12. 成人前期 13. 成人後期 14. 老年期 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「発達心理学」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館) 参考文献 「史上最強図解良くわかる発達心理学」林洋一監修 (ナツメ社)			科目試験(80%)、レポート(10%)、受講態度(10%) の結果を総合して評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 保育内容総論	配当学年・時期 1 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 美馬 正和	実務経験 有	実務経験の概要 発達支援センターにて、2年間児童指導員として児童分野の実務に携わっていた。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>子どもの生活と遊びの姿を捉えながら、保育内容の意義と構造を理解する。</p> <p>保育内容とは、保育実践の中核となるものであり、子どもたちが経験する生活や遊びの内容を指す。</p> <p>この科目では、子どもの生活と遊びの姿を捉えながら、保育内容である養護と教育の意義と構造を理解し、保育を総合的に捉える視点を養っていく。具体的には、保育内容の考え方、保育内容の実施計画としての教育課程・保育課程のあり方、指導計画のあり方、5領域の構造や相互の関連などについて学ぶ</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容の考え方 保育所・幼稚園における保育内容 2. 保育内容の歴史と現在 乳幼児の発達の特性と発達観 3. 発達過程と保育内容 乳幼児期にふさわしい生活 4. ケアと保育内容 子どものあそびを育てる保育内容の展開 5. 環境を通して行う保育内容の展開 生きる力の基礎を育む保育内容の展開 6. 保育課程の編成・指導計画の作成 7. 保育の評価と記録 8. 保育内容の現代的課題 保護者支援、地域の子育て家庭の支援と保育内容 健康・安全保育、食育、保幼小の連携と保育内容 					
[使用テキスト・参考文献] 「保育内容総論」(豊岡短期大学) 参考書 「幼稚園教育要領 解説」フレーベル館 「保育所保育指針 解説」フレーベル館			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) グループワーク(成果物を含む)60%、レポート40%により評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 子どもと言葉	配当学年・時期 1 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 島田 直美	実務経験 有	実務経験の概要 保育所で保育士、主任保育士として子どもの保育、保護者支援等に携わっていた。また、図書館で読み聞かせの実践をしている。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>乳幼児は言葉の獲得にめざましい時期であり、その育ちは言葉の様々な環境に大きく影響を受けることを学習する。</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき理解を深めると共に、子どもの言葉を育む保育者としての資質を養う。</p> <p>文字への興味、言葉の持つ楽しさや言語教材についての実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得する意義を探究する。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと言葉 言葉とは何か、生活と言葉 2. 乳幼児期の言葉の発達 I 音声の発達、文法・語の発達 3. 乳幼児期の言葉の発達 II 書き言葉の発達 言葉から文字へ 4. 言葉を育てる環境 人とのかかわり、保育者の援助とかかわり 5. 言葉の諸問題 言葉の遅れや障がい、外国の子どもの対応 6. 領域「言葉」 ねらいと内容、具体的な内容、他領域とのかかわり 7. 言葉を育む保育活動 8. 幼稚園、保育園、こども園と小学校の連携 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
幼稚園教育要領(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (フレーベル館) 参考文献:進呈 子どもと言葉 岡田明 編 (萌文書林)			筆記試験 80% 授業態度 20% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと音楽	1 前期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
成田 潤子	有	音楽教室において、楽理指導の経験を持つ。			
[授業の目的・ねらい]					
<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標 領域「表現」における「音楽表現」に視点を置き、保育者として専門的知識・技能・表現力を身につける ・テーマ 子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする音楽表現指導に関する技術力を養う。 ・授業の概要 音楽表現指導に必要な知識と、子どもが表現することの楽しさを見いだす過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むために必要な具体的指導法の取得。さらに小学校への学びへの接続を理解し、方法を考える。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」の理解と、音楽基礎知識を基にした学習の進め方と内容確認。 2. 様々な音符や休符の種類と記譜法について理解する。① 3. 様々な音符や休符の種類と記譜法について理解する。② 4. 拍子やリズムについての基礎を理解する。 5. 領域「表現」と他の領域(身体や言葉)との関連を考慮したリズムの理解と実践。 6. 音程の基礎を理解する。 7. 音階と調性の基本。子どもの音楽表現を豊かにする移調奏法の理解と実践。 8. 主要三和音・七の和音・カデンツについて理解する。 9. コードネームについて理解し、保育現場でのコード伴奏方法の理解と実践。① 10. コードネームについて理解し、保育現場でのコード伴奏方法の理解と実践。② 11. 子どもの歌の調性感やリズムについて分析と実践。① 12. 子どもの歌の調性感やリズムについて分析と実践。② 13. 幼児用楽器の取り扱いについて理解する。 14. 年間を通した子どもの成長と音楽表現を考察する。 15. 部分指導案の立案を踏まえ各年齢及び小学校へのつながりを理解する。 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「音楽表現論」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館) 「こどものうた200」小林美実編(チャイルド本社) 必要に応じてプリントを配布する。			レポート 20% 筆記試験 60% 受講態度 20% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 子どもと体育	配当学年・時期 1 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 三浦 裕	実務経験 有	実務経験の概要 平成21年8月,令和4年12月 教員免許状更新講習担当講師を務める			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>こどもの運動遊びは、訓練的にならず子どもたちが能動的に取り組み、多くの体験ができるような環境を設定することが大切である。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じた指導ができるとともに、こどもの発育発達に則した運動遊びの指導法を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.こどもの発育発達に則した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び(集団遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び)を考案し指導ができる。 2.遊具の安全性について認識を深め、子どもたちが安全に遊べる指導ができる。 <p>授業の概要</p> <p>こどもの運動遊びの必要性を発育発達の面から理解しながら、安全に楽しく運動遊びを展開するための指導方法と援助の仕方を学ぶ。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の運動遊びの必要性について考え、その環境作りや言葉かけを学ぶ。 2. こどもの発育と遊びについて 3. 基礎的運動① 歩・走・跳・押・引・転・登・投 4. 基礎的運動② 発育発達にあったグループ遊び 5. 基礎的運動③ 発育発達にあった競争遊び 6. 操作性遊具を使った遊び ボール、縄、フープ、竹馬 7. 身近な素材を使った遊び 8. こどもの体操 9. 器具を使った遊び 10. 野外での幼児の遊び 11. 固定遊具の遊びと安全点検 12. 大型遊具を使った遊び(マット・跳び箱・平均台など) 13. サーキット遊び 絵本の物語などを運動遊びに展開する 14. 鬼ごっこ遊び 15. 伝承遊び 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「表現とこどもの運動」(豊岡短期大学)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)</p> <p>知識・技能(40%)、思考判断(30%)、 学びあう心(30%)</p>		

授 業 概 要

授業の科目名 乳児保育 I	配当学年・時期 1 前期	授業形態 講義	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 本間 かおり	実務経験 有	実務経験の概要 認定こども園で保育士として乳児クラスの担当経験がある。			
[授業の目的・ねらい]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児保育(0歳児保育)の変遷 (2) 乳児保育の役割と機能 (3) 乳児保育における養護および教育 2. 乳児保育の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 (2) 保育所における乳児保育 (3) 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 (4) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 <ol style="list-style-type: none"> (1) 3歳未満児の生活・遊びと環境 (2) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり、保育における配慮 4. 乳児保育における連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員間の連携・協働、保護者との連携・協働 (2) 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 5. 乳児の生活 <ol style="list-style-type: none"> (1) 抱き方・ミルクの飲ませ方。 (2) 衣服の着脱、おむつの替え方。 6. 乳児における保健活動、健康状態の把握 7. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 「講義で学ぶ乳児保育」(わかば社) 「演習で学ぶ乳児保育」(わかば社) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 課題・レポート(70%)と授業態度(30%)で評価する		

授業概要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
人間関係論	1 前期	講義	15 (1)	8	選択
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
高橋 和也	有	幼稚園教諭として12年、保育園園長として2年勤務			
[授業の目的・ねらい]					
<ul style="list-style-type: none"> 現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育・保育で保証すべき保育内容に関する知識を身に付ける。 子どもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、子どもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。 					
[授業概要]					
<p>領域「人間関係」の基礎理論を理解し、子どもを取り巻く環境の変化について理解し、子どもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解する。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 領域「人間関係」 ねらいと内容 領域の相互性(保育活動の総合性とは) 人間関係を取り巻く社会環境① 少子高齢化 家族の変化 人間関係を取り巻く社会環境② 身近な環境の変容 メディアの変化 人間関係をつむぐ子どもの発達① 規範意識と道徳性の芽生え(育ち) ルール、決まりごとの意味と意義 人間関係をつむぐ子どもの発達② 自立心、協同性の芽生え(育ち) 自己発揮と自己抑制の芽生え(育ち) 人間関係と子どもの遊び 遊びの中で育つ乳児の人間関係 遊びの中で育つ幼児の人間関係 人間関係と子どもの生活 家庭との関わりと子どもの発達 地域との関わりと子どもの発達 今日的な人間関係の課題(多様な文化の子どもと気に留めたい子ども) 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「人間関係論」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			レポート 30% 筆記試験 50% 授業態度 20% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 子どもと音楽表現 I	配当学年・時期 1 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 成田 潤子	実務経験 有	実務経験の概要 音楽教室において、幼児から高齢者までの様々な年齢・様々な経験を持つ人々の演奏指導にあたる。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>・到達目標 保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動が展開できる技術と知識の習得を到達目標とする。</p> <p>・テーマ 保育内容にそってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成を育成することをテーマとする。</p> <p>授業の概要 ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身につける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は各自の習得度に応じた個別指導を行う。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>1回目 オリエンテーション ピアノ実技およびソルフェージュのレッスン授業としてのガイダンス</p> <p>2回目～14回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の習得度を考慮した練習曲をテキストより選び学習する。 ・ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも形式など楽曲構成にも注目し学習する。 ・課題曲の学習。 <p>15回目 授業のまとめ</p> <p>※授業終了後、発表会形式によるテスト(ピアノ演奏、ソルフェージュともこれまでの成果を互いに聴く)を行う</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
<p>「こどもの指導法(音楽表現)」(豊岡短期大学)</p> <p>「こどものうた200」 小林美実編(チャイルド本社)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p> <p>参考文献 「こどものうた(簡易伴奏曲付き)」田中常雄監修(圭文社)</p>			<p>受講態度 20%</p> <p>実技試験 80% で評価する。</p>		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと造形表現	1 前期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員 堀川 真	実務経験 有	実務経験の概要 絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通じて、内面世界の発達と心の理解を指導する科目			
<p>[授業の目的・ねらい] 保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識とさらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的に技術的なことも学習する。</p> <p>到達目標 1.保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本的なことが理解できることを目標とする。 2.乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。 3.乳幼児の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。</p> <p>授業の概要 乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現を理解する学習をする。さらに遊びとモノとの関わりから「描く」、「作る」、「造形遊び」などの題材や環境構成、援助のあり方について知識と製作体験を関連付けながら学習も展開する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの表現について 2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における「感性」と「表現」について 乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について 3. こどもの造形表現の環境作りと援助について 1歳児から2歳児 4. こどもの造形表現の環境作りと援助について 2歳児から3歳児 5. こどもの造形表現の環境作りと援助について 4歳児から6歳児 6. 教材研究 指導計画と教材について 7. 教材研究 指導計画と教材について 保育内容の課題について 8. 保育内容の指導法「表現」の課題について 					
<p>[使用テキスト・参考文献] 「こどもの指導法(造形表現)」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領(解説を含む)」並びに「保育所保育指針(解説書を含む)」</p>			<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 提出物(60%)、授業による取り組みと内容(40%)</p>		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
保育所実習指導 I	1 前期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員 島田 直美・濱本麻理野 本間かおり	実務経験 有	実務経験の概要 保育士として子どもの保育に携わり、クラス運営、実習生の指導等の経験がある。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>・保育所実習 I の実習内容を理解し、そのための基礎的な知識や技術を習得する。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①保育実習の意義・目的及び保育内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。 ②保育士の職務内容を理解し、実習生として必要な知識・技術を習得する。 ③子どもの人権の尊重、守秘義務について理解する。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年間の実習について 意義・目的・内容・方法の理解 2. 保育所についての理解 種類・仕組み・現状・課題等 3. 保育所保育についての理解① 保育所での子どもの生活と保育者の援助について 4. 保育所保育についての理解② 実習生としての子どもたちへの関わり方や援助の仕方等を学ぶ 5. 乳幼児の年齢別の発達と特徴 6. 保育にかかわる実技・技能について 7. 保育にかかわる実技・技能の実践① 絵本の読み聞かせ 8. 保育にかかわる実技・技能の実践② ゲーム・運動遊び 9. 実習の心構えや心得 10. 子どもの人権・職業倫理とプライバシーの保護、守秘義務 11. 実習記録(実習日誌)の意義・書き方 12. 実習課題・目標の立て方 13. 事後指導 I 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化 14. 事後指導 II 実習内容の振り返り、実習体験の発表 15. 事後指導 III 問題、疑問の定期によるグループディスカッション 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」 (わかば社) 「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」(わかば社) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館) 「新・たのしい子どものうたあそび 現場で活かせる保育実践」(同文書院)			実践・授業態度 40% 課題・レポート 60% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
施設実習指導 I	1 前期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員 野崎 哲也・綱島 弘泰 高橋 和也	実務経験 有	実務経験の概要 綱島:重症心身障害児施設、デイサービスなどで生活相談業務に携わった 高橋:幼稚園教諭として12年、保育園園長として2年勤務			
[授業の目的・ねらい]					
施設(体験)実習に向けての心構えと、必要な知識・技術を習得する <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習の意義・目的について学ぶ ・障がい者支援施設の目的・機能について学ぶ ・実習対象者について学ぶ ・施設実習の一般的内容を理解し、実習目標を設定する ・自らの実習を客観的に振り返り、2年次の実習へとつなげる 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 1年次施設実習について 2. 実習生身上調書の作成指導 3. 実習施設及び利用者に関する理解① 4. 実習施設及び利用者に関する理解② 5. 実習生としての心得① 6. 各自の実習先施設の概要把握 7. 実習目標の設定、記録(日誌)の指導 8. 事前訪問・電話連絡 9. 実習生としての心得② 10. 実習反省、実習報告書の作成 11. 各自の実習についてのまとめ、発表準備 12. 実習報告・発表 13. 実習報告・発表 14. 実習報告・発表 1年次施設実習のまとめ 15. 2年次実習の概要説明と希望調査					
[使用テキスト・参考文献] なし			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 授業態度 40% 課題・レポート 60% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 自然と生命	配当学年・時期 1 前期	授業形態 演習	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 野崎哲也・高橋和也	実務経験 有	実務経験の概要 高橋:幼稚園教諭として12年、保育園園長として2年勤務			
[授業の目的・ねらい]					
<p>地球上に存在するすべての生命は、40億年という、とてつもない時間の中で多種多様な進化を遂げてきました。豊かで時に厳しい自然環境の中で、絶妙なバランスを保ちながら、それぞれの生命が存在していますが、人間の手によって引き起こされる「環境汚染」「環境破壊」のために、地球の自然は急速に失われつつあります。</p> <p>次の世代を担う子どもたちを守り、育てる保育士として、自然への理解、関心を深め、どうすればこの素晴らしい地球の自然を子どもたちに引き継いでいくことができるのかを考えていきたいと思えます。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>「授業計画」</p> <p>1 人間と自然との関わり</p> <p>① 進化台のフィールドワーク ② 大雪山の自然環境と恵み ③ 自然の中で生かされる生命 ④ 自然体験活動の実際</p> <p>2 耕生活動</p> <p>① 学校農園で野菜や花の栽培を体験する。 ② 作物の管理育成、収穫を通して、生命の循環を体験する</p> <p>3 自然に触れる</p> <p>① 森のほいくえん ～トイトイ～ の環境整備 ② 森のほいくえん ～トイトイ～ で自然を生かした遊びを楽しむ</p>					
[使用テキスト・参考文献] なし			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 野外活動への参加態度(30%) レポート(70%)により評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
情報リテラシーと処理技術	1 後期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
小堀 博文	有	事務機販売メーカーでエンドユーザーのコンピュータシステム開発に携わった経験から、保育者が必要とする情報処理の基本操作を実践的に教授する			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会の発展について理解する。 2. コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）アーキテクチャの基本を理解する。 3. 情報ネットワーク（インターネットなど）の基本を理解し、活用できるようになる。 4. 情報システムの課題について理解し、活用するために必要となる知識を身に付ける。 5. パソコン操作の基本を身に付ける。 6. ワードプロソフトの基本操作を身に付ける。 7. 表計算ソフトの基本操作を身に付ける。 <p>授業の概要 テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワードプロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. < 情報化社会 > / < コンピュータの発展 > / プログラム言語 2. < ソフトウェア > OS・Windows / USBメモリ 3. < 情報システムの課題 > < ハードウェア > 主記憶装置と各種記憶装置 4. ファイルとフォルダ 5. VBAによるプログラミング演習 6. PowerPoint 図形描画① 7. Word 文書作成(新規・既存文書①②) 8. PDF / インターネット(ビジネスメール) / PowerPoint 図形描画② 9. Word 文書作成(新規文書②) 10. Word 文書作成(新規文書③) 11. Excel 表計算 基本、シート操作、入力規則 12. Excel 表計算 データベース機能① 13. Excel 表計算 データベース機能② 14. Excel 表計算 複数シート操作、グラフ、図形描画 15. まとめ <p style="text-align: center;">なお、学習順番は、学習状況により多少変わる</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「情報リテラシーと処理技術」(豊岡短期大学) 「保育者のためのパソコン講座」 萌文書林</p> <p>[その他]</p> <p>学習データを事前に入れるため、学習前にUSBメモリを別途準備し、担任に預けること。随時、提出あり。</p>			<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業への取り組み10% ②レポートなどの課題提出物40% ③科目修了試験50% <p>①②③を総合して評価する。</p>		

授 業 概 要

授業の科目名 英 語	配当学年・時期 1 後期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 大谷 美佐子	実務経験 有	実務経験の概要 幼稚園教諭として幼稚園にて10年、保育所にて2年実務に携わり、現在は児童英語講師として指導			
[授業の目的・ねらい]					
<p>近頃では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本授業では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目的とする。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語表現の基礎となる文法・構文を運用することができる。 2. 保育現場で使用される英語表現を身に付けることができる。 <p>授業の概要</p> <p>授業の最初に、英語表現の基礎となる文法事項や基本構文の復習および練習を行う。その後、保育園でのさまざまな生活場면을題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の文法(1)(動詞、形容詞・副詞) 2. 英語の文法(2)(比較、代名詞、疑問詞) 3. 英語の文法(3)(進行形、完了形、受動詞) 4. 英語の基礎構文(1)(5文型) 5. 英語の基礎構文(2)(修飾語句) 6. 英語の基礎構文(3)(接続詞、仮定法) 7. 入園準備に必要な英語の学習 8. 登園・降園に必要な英語の学習 9. 室内遊びに必要な英語の学習 10. 外遊びに必要な英語の学習 11. 健康・病気・けがに必要な英語の学習 12. 運動・お散歩に必要な英語の学習 13. 食事に必要な英語の学習 14. 工作・お絵かきに必要な英語の学習 15. おたより・行事に必要な英語の学習 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「英語コミュニケーション」(豊岡短期大学) 参考書・参考資料等 「新 保育の英語」森田和子著(三修社)			レポート(30%)、科目試験(60%)、授業態度(10%) で評価する。		

授業概要

授業の科目名 保健	配当学年・時期 1 後期	授業形態 講義	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 鳴澤 吉紀	実務経験 有	実務経験の概要 地方公務員(教諭)として36年間にわたり、体育実技、体育理論及び教科経営を行ってきた。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>日々健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければならない。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。</p> <p>到達目標 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。また、救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身に付けるとともに、生涯における健康な生活設計(薬物・アルコール・たばこ・エイズ等)への自己の認識を確立し実践できるようになる。</p> <p>授業の概要 テキストにより科学的健康づくりを学ぶ。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 「健康」の目標とねらい 幼稚園要領及び保育指針における「健康」の推移 現代社会における体育教育と健康観 健康日本21 運動の生理 -乳幼児の発達と健康- 運動の基礎理論 -運動的発達とトレーニング論- 運動の基礎理論 -発育期におけるスポーツ障害と対処法- 生活と運動 -リスクファクターと持病- 運動処方と健康な生活設計 <ul style="list-style-type: none"> ・運動強度(Vo^2max)と有酸素運動 ・薬物等ストレス 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくり 					
[使用テキスト・参考文献] 「健康科学」(豊岡短期大学)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 知識・技能(40%)、思考判断(30%)、 学びあう心(30%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
社会的養護 I	1 後期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員 多田 傳生	実務経験 有	実務経験の概要 障害児入所施設13年、児童心理治療施設2年、児童養護施設5年、児童相談所13年にわたり、児童福祉に携わっている。			
[授業の目的・ねらい]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護の理念と概念 (2) 社会的養護の歴史の変遷 (3) 現代社会と社会的養護 2. 社会的養護の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの人権擁護と社会的養護 (2) 社会的養護の基本原則 (3) 社会的養護における保育士等の倫理と責務 3. 社会的養護の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護の制度と法体系 (2) 社会的養護の仕組みと実施体系 4. 社会的養護の対象・形態・専門職 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護の対象 (2) 家庭養護と施設養護 (3) 社会的養護に関わる専門職 5. 社会的養護の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護に関する社会的状況 (2) 施設等の運営管理 (3) 被措置児童等の虐待防止 (4) 社会的養護と地域福祉 <p>・講義の進め方 具体的なケース事例、児童養護施設での体験、テレビ、新聞等での児童に係わる社会問題等を題材にした講義と、可能な限り学生との対話を重視した授業としたい。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「社会的養護 I」(豊岡短期大学) 図解で学ぶ保育「社会的養護 I」(萌文書林) 「発達障害」だけで子どもを見ないでその子の「不可解」を理解する(SB新書)			課題・レポート(70%)、授業態度(30%)で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
保育者論	1 後期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
菅原 信子	有	保育士として保育現場で勤務し2011年より園長職。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>①保育者の役割と制度的位置づけを理解する。 ②保育士の専門性について学ぶ。 ③多職種との協働を理解し、共同でつくり合うことを学ぶ。 ④職業人としての成長を目指す意思を持てるようにする。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>1 「保育者とは」について～役割、求められる資質 2 保育士の制度的位置づけ 3 養護と教育の一体化について学ぶ 4 子どもたちひとりひとりの理解と必要とする援助について(1) 5 子どもたちひとりひとりの理解と必要とする援助について(2) 6 子どもの育つ環境を理解し、めざしたい方向を考えることについて(1) 7 子どもの育つ環境を理解し、めざしたい方向を考えることについて(2) 8 保育実践から学ぶ(1) 9 保育実践から学ぶ(2) 10 保育実践から学ぶ(3) 11 保育者の協働保護者支援～職員間、専門機関との連携について(1) 12 保育者の専門性について～専門性の資質向上(1) 13 保育者の専門性について～専門性の資質向上(2) 14 保育者の専門性について～自己評価 15 保育者の専門性について～研修について</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
<p>・新しい保育講座 保育者論 (ミネルヴァ書房) ・随時、必要に応じてプリントを配布する</p>			<p>①受講態度 40% ②定期試験 60% 100～80点 優 69～60点 可 79～70点 良 59点以下 不可</p>		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子ども家庭支援の心理学	1 後期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員 平間 千絵 野崎 哲也	実務経験 平間 有	実務経験の概要 精神神経科外来において臨床心理士として5年間心理業務、また本校学生相談室における心理業務に従事している			
[授業の目的・ねらい]					
<p>1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</p> <p>2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</p> <p>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。</p> <p>4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>1. 生涯発達</p> <p>(1) 乳幼児期の発達</p> <p>(2) 学童期前期の発達</p> <p>(3) 学童期後期の発達</p> <p>(4) 青年期の発達</p> <p>(5) 成人期における発達</p> <p>(6) 老年期における発達</p> <p>2. 家族・家庭の理解</p> <p>(1) 家族・家庭の意義と機能</p> <p>(2) 親子関係・家族関係の理解</p> <p>(3) 子育ての経験と親としての育ち</p> <p>3. 子育て家庭に関する現状と課題</p> <p>(1) 子育てを取り巻く社会的状況</p> <p>(2) ライフコースと仕事・子育て</p> <p>(3) 多様な家庭とその理解</p> <p>(4) 特別な配慮を要する家庭</p> <p>4. 子どもの精神保健とその課題</p> <p>(1) 子どもの生活・生育環境とその影響</p> <p>(2) 子どもの心の健康に関わる問題</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「こどもの発達と家庭支援」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)			科目試験(80%)、レポート(10%)、受講態度(10%) の結果を総合して評価する。		

授業概要

授業の科目名 教育心理学	配当学年・時期 1 後期	授業形態 講義	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 選択
担当教員 平間 千絵	実務経験 有	実務経験の概要 精神神経科外来において臨床心理士として5年間心理業務、また本校学生相談室においての心理業務に従事である			
[授業の目的・ねらい]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。 2. 主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基盤となる考え方を理解する。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学を学ぶ意義 2. 発達の考え方とその理解 3. 学習のしくみ① 4. 学習のしくみ② 5. 学習のしくみ③ 6. 動機づけ 7. 原因帰属 8. 学習性無力感 9. 内発的動機付けと外発的動機付け 10. 学びを支える記憶のしくみ 11. パーソナリティとは 12. パーソナリティをとらえる 13. 知能について 14. 発達の障害① 15. 発達の障害② 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「教育心理学」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			科目試験(80%)、レポート(10%)、受講態度(10%)の結果を総合して評価する。		

授業概要

授業の科目名 子どもの文化	配当学年・時期 1 後期	授業形態 演習	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 選択
担当教員 島田 直美	実務経験 有	実務経験の概要 保育所で保育士、主任保育士として子どもの保育、保護者支援等に携わっていた。また、図書館で読み聞かせの実践をしている。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化材が子どものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用した言葉の理解を目的とする。</p> <p>・言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉の機能と言葉の発達 <ul style="list-style-type: none"> ・人間と言葉、幼児と言葉 ・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割 2. 領域〈言葉〉のねらい及び内容 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 3. 言葉を育てる児童文化財① <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化財とは ・絵本 4. 言葉を育てる児童文化財② <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居 ・おはなし 5. 言葉を育てる児童文化材③ <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサート ・シアター(パネルシアター・エプロンシアター) 6. 言葉を育てる児童文化財④ <ul style="list-style-type: none"> ・言葉に対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、言葉あそび 7. 言葉を育む教材 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を育む教材の範囲 ・言葉を育む教材研究 8. 保幼小連携について 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
言葉とこどもの文化(豊岡短期大学) 幼稚園教育要領(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (フレーベル館)			実技試験 30% レポート・筆記試験 60% 授業態度 10% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
保育課程論	1 後期	講義	30 (2)	15	必修
担当教員	実務経験	実務経験の概要			
野崎 哲也					
[授業の目的・ねらい]					
<p>1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。</p> <p>2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。</p> <p>3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>1. 保育の計画と評価の基本</p> <p>(1)カリキュラムの基礎理論</p> <p>(2)保育における計画と評価の意義</p> <p>(3)子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の循環による保育の質の向上</p> <p>2. 保育所における保育の計画</p> <p>(1)保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景</p> <p>(2)保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方</p> <p>(3)全体的な計画と指導計画の関係性</p> <p>(4)全体的な計画の作成</p> <p>(5)長期的な指導計画の作成</p> <p>(6)短期的な指導計画の作成</p> <p>(7)指導計画作成上の留意事項</p> <p>(8)計画に基づく保育の柔軟な展開</p> <p>3. 保育所における保育の評価</p> <p>(1)保育の記録及び省察</p> <p>(2)保育士及び保育所の自己評価</p> <p>(3)保育の質向上に向けた改善の取組</p> <p>(4)生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「教育課程・保育の計画と評価」(萌文書林) 「教育課程論」(豊岡短期大学)			期末試験の結果で評価する(100%)		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと人間関係	1 後期	演習	15 (1)	8	必修
担当教員 島田 直美	実務経験 有	実務経験の概要 保育所で保育士、主任保育士として子どもの保育、保護者支援等に携わっていた。			
[授業の目的・ねらい]					
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や、「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容について理解を深める。 ・様々なかかわりを通じた人間関係の発達について、実践エピソードを取り上げ解説するなかで、他者との関係や集団との関係を通し乳幼児期の人とかかわる力が育つことを理解する。 ・保育者の役割として、どのように子どもの「人とかかわり」を育てていくのか、保育者と子ども、子ども同士、さらには養育者と子ども、保育者と養育者など様々な関係について考察する。 ・領域「人間関係」及び他領域との関連の中で、人とかかわりを促す保育指導案を作成し実践する。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と人との関わり <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりを基礎を育てること／領域「人間関係」のねらいと内容 2. 乳幼児期における人とかかわりの発達 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の発達と人間関係／幼児期の発達と人間関係 3. 人とかかわりを育てる保育の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわれない子どもたち／人とかかわる力が育っていく過程 4. 人とかかわりを育てる保育者の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとしての保育者／対話者・援助者としての保育者 5. 遊びの中で育つ人とかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわりと遊び／遊びの中での人間関係 6. 人とかかわりを促す協同的な遊び① 指導案作成 7. 人とかかわりを促す協同的な遊び② 遊びの実践 8. 人間関係をめぐる現代的課題 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (フレーベル館)			課題・試験 80% 授業態度 20% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名 子どもとリズム表現	配当学年・時期 1 後期	授業形態 演習	時間数(単位数) 15 (1)	授業回数 8	必修・選択 必修
担当教員 成田 潤子	実務経験 有	実務経験の概要 音楽教室において、幼児から高齢者までの様々な年齢・様々な経験を持つ人々の演奏指導にあたる。			
<p>[授業の目的・ねらい] 保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するため必要な知識や技術を自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。</p> <p>授業の概要 幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として多領域での知識や技術と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現からその理論と実践を学習し、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」についての基本的な考え方 幼稚園指導要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」特にリズム表現(含身体表現)の位置づけと設定の理解 2. 基礎リズム 歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基本リズムパターンの理解と応用 3. 基本動作 幼児の心情・認識・思考及び動き等を踏まえた基本動作の実践 4. 音楽表現① 楽器の取扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の制作 5. 音楽表現② (イメージと動き、言葉) オノマトペ (擬態語・擬音語・擬声語) を動きや言葉で表現する 6. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助 絵本のストーリーを基にした表現実践を通しての考察 7. オリジナルリズム遊びの創作 実践を通しての考察 その発表と振り返り① 8. オリジナルリズム遊びの創作 実践を通しての考察 その発表と振り返り② 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (フレーベル館) 参考書 「1～5歳のかんたんリトミック」神原雅之著(ナツメ社) 「リズム&ゲームにどっぷり! リトミック77選」 神原雅之他著(明治図書) 「乳幼児のダンスABC」猪崎弥生・山田悠莉著 (一二三書房)			筆記試験 30% 実技試験 50% 受講態度 20% で評価する。		

授 業 概 要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
子どもと造形	1 後期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員 堀川 真	実務経験 有	実務経験の概要 絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通じて、内面世界の発達と心の理解を指導する科目			
<p>[授業の目的・ねらい] 保育の内容を踏まえた造形の基本的な知識の習得を目指し、手の動き・感性・造形的思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p> <p>到達目標 1.保育内容について、こどもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解することを目標とする。 2.形や色、質感等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いを理解しながら、実際の製作活動を通して造形表現ができることを目標とする。 3.こどもの生活経験と造形活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標とする。</p> <p>授業の概要 幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとにした色彩分割及び構成学習を行う。また具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から創造力を高め、こどもの造形あそびに関わる手法研究を行う。その他、日用品や廃材等を使用して、素材の質感に触れながら感受性を磨き、創意工夫をして材料を貼りつける製作を行う等、造形教育を展開するために必要となる知識や技術について体験的に理解します。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 色彩の配色構成・形態の分割構成の理論と実践① 2. 色彩の配色構成・形態の分割構成の理論と実践② 3. 基本形態(立方体)の描写と各面の明度差の理論と実践① 4. 基本形態(立方体)の描写と各面の明度差の理論と実践② 5. デッサン基礎(鉛筆の濃淡を活かした表現)① 6. デッサン基礎(鉛筆の濃淡を活かした表現)② 7. 絵画技法・描法の研究Ⅰ(モチーフを使用した写生)① 8. 絵画技法・描法の研究Ⅰ(モチーフを使用した写生)② 9. 絵画技法・描法の研究Ⅱ(画材の成分からはじき効果を研究)① 10. 絵画技法・描法の研究Ⅱ(画材の成分からはじき効果を研究)② 11. 絵画技法・描法の研究Ⅲ(吹き流しの技法と活用)① 12. 絵画技法・描法の研究Ⅲ(吹き流しの技法と活用)② 13. コラージュ作成と材料研究(点・線・面・材質を組み合わせた作品製作)① 14. コラージュ作成と材料研究(点・線・面・材質を組み合わせた作品製作)② 15. 幼児造形教育の課題とまとめ <p>※授業の特性上、1つのテーマにつき90分×2コマで理論の学習と実践に取り組むこととする。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 「造形表現論」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など) 提出物(60%)、授業による取り組みと内容(40%)		

授 業 概 要

授業の科目名 子どもと音楽表現Ⅱ	配当学年・時期 1 後期	授業形態 演習	時間数(単位数) 30 (2)	授業回数 15	必修・選択 必修
担当教員 成田 潤子	実務経験 有	実務経験の概要 音楽教室において、幼児から高齢者までの様々な年齢・様々な経験を持つ人々の演奏指導にあたる。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>・到達目標 保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動が展開できる技術と知識の習得を到達目標とする。</p> <p>・テーマ 保育内容にそってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成を育成することをテーマとする。</p> <p>授業の概要 ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身につける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は各自の習得度に応じた個別指導を行う。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>1回目～14回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストより練習曲を選び学習する。 ・ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも形式など楽曲構成にも注目し学習する。 ・課題曲の技術的な問題点の練習法 ・課題曲の練習 <p>15回目 授業のまとめ</p> <p>※授業終了後、発表会形式によるテスト(これまでの成果の発表、お互いの演奏を聴きあう)を行う</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
「こどもの指導法(音楽表現)」(豊岡短期大学) 「こどものうた200」 小林美実編(チャイルド本社) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)			受講態度 20% 実技試験 80% で評価する。		
参考文献 「こどものうた(簡易伴奏曲付き)」田中常雄監修 (圭文社)					

授業概要

授業の科目名	配当学年・時期	授業形態	時間数(単位数)	授業回数	必修・選択
地域子育て支援活動Ⅰ	1 後期	演習	30 (2)	15	必修
担当教員 島田 直美 他専任教員	実務経験 有	実務経験の概要 保育所で保育士、主任保育士としての実務経験がある。本校の地域子育て支援活動「遊びの広場」の開設当時(平成18年)から携わっている。			
[授業の目的・ねらい]					
<p>〈 目 標 〉</p> <p>地域福祉や地域援助技術について学ぶとともに、地域生活支援センターの活動やボランティア支援活動などに参加することによって、体験的に地域生活支援について学び、地域に根ざした保育・福祉の実践力を身につける。</p> <p>子育て支援の理念や内容・方法等について学び理解を深めるとともに、地域生活支援センターで展開する遊びの広場やイベントへの参加や、親子レクリエーション活動の企画・運営などを通して、体験的に子育て支援について学び、保育士に求められる育児支援の実践力を身につける。</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>① オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援の基本姿勢・保護者や子どもたちへの関わり方・『遊びの広場』について ・手作り名札、手作りおもちゃについて <p>②～⑬ 実践</p> <p>A. 実践『遊びの広場』を通し、以下のことを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の理念について学び理解を深めるとともに、地域診断・計画・実践・評価といった地域援助に関する知識・技術を身に付ける。 2. 地域活動支援センターを利用する乳幼児親子、障害児(者)、高齢者の方々の活動をサポートすることを通して、福祉従事者としての実践力を身につける。また利用者の方々と実際に触れ合うことによって、地域のニーズを適確に捉える視点を身に付け、新たな実践活動の企画へと結びつける。 3. 子育て支援についての基本的な知識を身に付けるとともに、子育て支援の現場で活躍している方々にも講義をしていただき、実際の事例を通して子育て支援に対する理解を深める。 4. 遊びの広場を利用する子どもと保護者の遊びをサポートする。また保護者から直に育児体験を聞くことで、適切な育児支援のための視点を身につける。 5. 親子レクリエーション活動の企画・運営を通して、子どもや保護者のニーズを適確に捉え、そのニーズに適切に応える支援について考え、実践力を高めていく。 <p>B. 手作りおもちゃ、名札の作成を通し以下のことを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 制作過程・発表を経験し、手作りおもちゃの持つ優しさや温かさにふれるとともに、児童文化財への理解を深める。 2. 心を込めて制作した作品に愛着を持つとともに、作品を演じることで保育技術を高める。 <p>⑭⑮ まとめ 実践の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『遊びの広場』を通して学んだ地域子育て支援について考えをまとめる ・手作りおもちゃ発表会を行い、作品の発表や鑑賞をする 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準](試験等の評価基準など)		
なし			<p>①学習態度20%</p> <p>②実践(『遊びの広場』計画・準備・実践・反省)40%</p> <p>③授業課題(作品)40%</p> <p>①②③により総合的に評価します。</p>		